

# 羅針盤



第 16 号

令和7年9月1日（月）

## ◆ 「防災の日」と「二百十日」

9月1日は、「防災の日」です。「防災の日」は、大正12年（1923年）9月1日に発生して関東地方に甚大なる被害をもたらした関東大震災を教訓として、防災意識を高めるために、昭和35年（1960年）に制定されました。「防災の日」には、避難訓練や防災に関する講習会など、様々な防災に関するイベントが行われています。また、9月1日の「防災の日」を含む8月30日から9月5日までの期間を「防災週間」としています。関東大震災のような大規模地震だけでなく、台風や風水害（洪水、土砂災害、高潮など）、火山や雪崩といった自然災害に備えることの大切さを考える日にもなっています。9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦のうえでは雑節（季節の移り変わりの目安となる日）の一つである立春の日（2月3日）から数えて210日目の日を意味する「二百十日」で、220日目の「二百二十日」とともに、台風が来襲する厄日とされています。災害への備えを怠らないためには、何をしておくべきなのか。水や食料品、救急用品などの準備といったことだけでなく、消火器の設置場所や使い方の確認、火災時や怪我人が出た場合の通報の仕方、緊急避難場所の確認、家族間の連絡方法といったことも大事なことであるはずです。また、地震の時、火事の時、台風の時、それぞれの避難の仕方の違いといったことを理解したうえで、迅速に行動に移すことも

大事なことです。例えば、地震であれば、落下物や倒れてくるものから頭部を守るために、素早く机やテーブルの下に潜る必要あるでしょうし、火事の時には、煙を吸わないためにハンカチで口を抑えながら避難する必要があります。災害の状況に応じた、自分自身の身を守るために手立てを的確に行動することのできる準備をしておくことも、災害に対する備えであるはずです。この機会に、「災害の備え」について考えておく必要があると思います。



## ◆ 「重陽の節句（菊の節句）」

「重陽（ちょうよう）の節句」とは、9月9日に行われる五節句の一つで、別名「菊の節句」とも呼ばれたりします。中国から伝わった行事で、奇数（陽数）が重なる日は縁起が良いとされており、特に最大の陽数である「9」が重なる9月9日を「重陽（ちょうよう）」と名付けて、菊の花を観賞したり、菊酒を飲んだりして、不老長寿を願うようになったそうです。菊は古来より、邪気を払い、長寿の効能がある植物であると信じられており、菊の香りを移した「菊酒」を飲んだり、菊を飾ったりして長寿を願う風習が根付いていったと言われています。菊の花が見ごろを迎える時期でもあることから、菊を愛でる行事やイベントとして、菊人形展や菊の花の品評会などが、行われたりしています。また、江戸時代には、「重陽の節句」に雛人形を飾る「後の雛」といった風習も広まったそうです。強い香りで邪気を払い、無病息災や長寿延命を祈願することで、不老長寿の力を持つ高貴な花とされている「菊」の鑑賞に出かけてみるのも、これから秋という季節を楽しむ一つの方法かもしれません。

